

研究課題	ICT を活用した生き方を振り返り、自己成長を実感する教育の推進
副題	～ICT を活用したデジタルキャリアノート作成を通して～
キーワード	キャリア教育・キャリアノート・ICT 機器活用
学校/団体名	新潟市立中之口西小学校
所在地	〒950-1348 新潟県新潟市西蒲区打越甲244番地
ホームページ	http://www.nakanisi.city-niigata.ed.jp

1. 研究の背景

2020年度より、キャリアパスポートが開始された。文部科学省からの例示によると、A4の紙面への記録であったり、蓄積は数ページという説明であったりがなされている。しかし、今後、中・長期的にキャリアパスポートを活用することを考えた場合、写真・動画・音声・制作物（プレゼン）など、多岐にわたった記録が、子供の成長記録となるのではないだろうか。きっと将来、ICTを活用したキャリア教育がなされるはずである。そして、すでに高等学校や大学では、そうした試みもされている。

私たちは、それを学びの原点である小学校で、取り組みたい。ICTを有効活用し、どういった記録が子どもの生き方を成長させ、どういった記録のつながりが、将来を展望することにつながるのか研究していくこととした。

2. 研究の目的

本研究は、子どもに生きる喜びを与え、自己の成長を感じさせることで、社会と協働的に生きていこうとする力を養うことを目的としている。

2020年度から文部科学省では、「キャリアパスポート」がスタートし、それに伴い「キャリアノート」の推進が図られている。しかし、実態は学びの記録として今まで行っていたものを束ねたに過ぎないと考えている。子ども自身が自らの変容を評価し、中・長期的に学びを振り返るためには、いささか不安な面がある。そこで、ICTを活用し、「デジタルキャリアノート」を作成し、教師の指導の下、有効に活用することで上記目的が達成できると考える。

3. 研究の方法

- ・教職員向けに、ICT機器を活用するための校内研修を実施する。（新潟大学より講師招聘）
- ・各学校行事や教育活動における児童の「事前の思い」「当日までの過程」「当日の様子」「事後の振り返り」をタブレットPCを使用して映像や音声で記録する。（デジタルキャリアノート）
- ・「デジタルキャリアノート」を作成していくことによる児童の変容を分析する。

※今回の助成では、タブレットPCに記録した映像や音声を編集するためのノートパソコンとタブレットPCから大画面に出力して教室で共有するためのEasyCastを全学年に配備した。また、実践研究の指導のため、新潟大学から講師を招聘した。

4. 研究の経過

	取り組み内容	評価のための記録
4月	・研究の概要と実践方法について、全職員で確認 ・年度のめあてをデジタルキャリアノートに記録開始	デジタルキャリアノート
5月		
6月	・タブレットPCに記録した個々のデータを共有する。	教師の見取り
7月	・ICT機器に関する職員研修	
8月	・研究実践のための指導助言（新潟大学より講師招聘）	
9月	・運動会のめあてをデジタルキャリアノートに記録 ・文化祭の作品作りと音楽発表のめあてをデジタルキャリアノートに記録 ・運動会の振り返りをデジタルキャリアノートに記録 ・前期の振り返りをデジタルキャリアノートに記録	デジタルキャリアノート 教師の見取り
10月	・文化祭の音楽発表（合唱・合奏）をデジタルキャリアノートに記録し、購入したPCで編集・保存 ・文化祭の音楽発表と作品作りについての振り返りをデジタルキャリアノートに記録 ・後期のめあてをデジタルキャリアノートに記録	デジタルキャリアノート 教師の見取り
11月	・児童会祭りのめあてと振り返りをデジタルキャリアノートに記録 ・研究の中間まとめ、現時点での成果と課題と改善策の提案	デジタルキャリアノート 教師の見取り
12月		
1月	・研究実践のための指導助言（新潟大学より講師招聘）	
2月	・年間の児童の振り返り記録 ・6年修学旅行のめあてをデジタルキャリアノートで記録	デジタルキャリアノート 教師の見取り
3月	・6年修学旅行振り返りプレゼン作成 ・今後の研究継続について検討 ・児童のデジタルキャリアノートのDVD化（児童に配付）	デジタルキャリアノート 教師の見取り

4. 代表的な実践

① キャリアノートの作成

まず、事前の準備段階として、中学校校区のキャリア教育担当者が中心となり、キャリアノートにどのような成果物を保存していくか検討した。また、キャリアのノートに保存していくテンプレートも中学校校区で統一を図った。（図1）

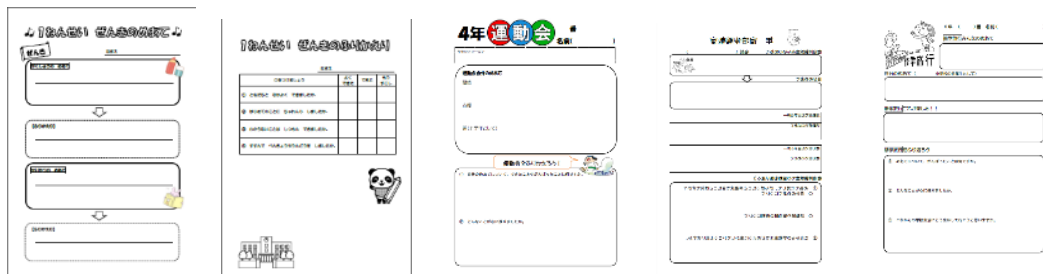


図1

② タブレットPCの操作を定着させる。

タブレットPCを使用してデジタルキャリアノートを作成して行くにあたり、タブレットPCの操作に慣れさせるために、日頃の授業から積極的にタブレットPCの活用を促した。普段、一方的に話を聞いたり、書いたりすることが苦手な子も、タブレットPCからの情報や操作に集中することで関心意欲が高まった。

③ 年度当初の目標を映像で記録する。

キャリアノートに準じて、進級した学年としての目標について、タブレットPCを使用して記録した(図2)。友達同士でお互いを録画し合った。始めは声が小さかったり、録画がうまくいかなかったりしていたが、映像を見直して、どこが良くなかったのか、どうすれば良いのかを話し合い、再度記録に臨んでいる様子が見られた。



図2

④ 高学年による低学年の記録補助

低学年がデジタルキャリアノートについて記録するときは、高学年が機器操作や、記録の内容についてアドバイスを行った。低学年にとっては、高学年のお兄さんお姉さんを相手に、楽しく活動することができた(図3)。この経験により、低学年のICTへの興味関心を高めることができ、今後の情報教育の素地を育むことができた。

また、高学年にとっては、低学年にICT機器の操作方法を教えたり、記録の仕方を教えたりする経験を通して、高学年としての責任を自覚し、自己有用感や自己肯定感を高める良い経験となった。



図3

⑤ 運動会のめあて記録

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、ゴールデンウィークから休校措置となり、様々な行事や活動が延期や中止となった。5月に予定していた運動会も9月に延期されたが、めあてと振り返りは予定通りタブレットPCを使用して記録することができた。また、今年度は競技種目を縮小する代わりに、6年生全員が応援団として活動し、応援合戦には、ダンスパフォーマンスを披露した(図4)。その動画もビデオカメラで撮影しておき、デジタルキャリアノートに収録することができた。



図4

⑥ タブレットPCを使用したプレゼン作成

タブレットPCや本助成で購入したパソコンを使用して社会科の学習で調べたり、学んだりしたことのプレゼンを作成し発表した。(図5) ICT機器の扱いにもだいたい慣れてきて、アニメーションや画面の切り替えなど、様々な機能を駆使しながら分かりやすくプレゼンにまとめることができた。作成したプレゼンデータもデジタルキャリアノートとして保存した。



図5

⑦ 新型コロナウイルス感染症に対応した音楽会の発表

折しも、新型コロナウイルス感染症が猛威を振っている状況であったため、例年文化祭の目玉として行っている音楽発表会が開催できないということが決まった。しかし、本助成で取り組んでいるデジタルキャリアノートの実践経験から、発表を映像として記録し、保護者にそれを見てもらうことができるのではないかと考え、映像発表という形で実施することができた(図6)。実際は、多目的室に大型モニターを設置し、そこでパソコンを操作すると音楽発表会が視聴できるようにした。子どもたちは、これまでの経験から、カメラの前であっても、他者に見られているという意識を忘れること無く真剣に取り組むことができた。また、副次的ではあるが、繰り返し見られる、我が子をズームできる等の好意的な感想が保護者から寄せられた。



図6

⑧ 360° カメラを使用した取り組み

本助成により、実践研究の助言を頂いている新潟大学の教授から、実験的に360°カメラを借り受け、実践してみる事となった。体育の表現運動を行う際に、子どもたちの中心に置いて撮影した(図7)。子ども全員の様子がその場にいるかのように見渡すことができ、個々にあった動きの指導をすることができた。また、映像を動かして子ども同士で動きの確認を司ったりする姿が見られた。



図7

⑨ 6年修学旅行のめあて記録・振り返りプレゼン作成

6年生の修学旅行は、新型コロナウイルス感染症対策のため、3月初旬に延期した。6年生は修学旅行のめあてをタブレットPCを使用してデジタルキャリアノートに記録した(図8)。修学旅行終了後の振り返りでは、佐渡の画像を使用して、自分たちが修学旅行で学んだことや、感じたことをプレゼンにまとめることができた。



図8

5. 研究の成果

本研究は、今年度より全国で実施された、「キャリアノート」の取り組みを、ICT機器を使用してデジタル化していこうとする試みであった。ICT機器を使用することにより、子どもたちは、これまでの紙媒体に比べて、より多くの場面で、音声・映像・写真などのより多様な形で、自分たちの成長を記録し、振り返ることが可能となった。紙媒体と比べて、より詳しく過去の自分の様子を振り返ることができるので、紙媒体のみのキャリアノートだけでは気付かなかった自己の成長に気づき、これからのさらなる成長に希望を持って進むことができるようになると思う。実際、6年生にアンケートを取ると以下のような結果が見られた。

タブレット PC を使用してめあてや感想を記録することで、自己の成長を振り返りやすい	91%
--	-----

(令和2年度新潟県新潟市立中之口西小学校6年生22名に調査)

このことから、タブレットPCを使用してデジタルキャリアノートを作成することは、子どもたちに自己の成長を実感させることに有効であったと考える。

6. 今後の課題・展望

今回の取り組みは、学校単位の中期的であったり、学校種を跨いでの長期的であったりした場合に、さらに効果を発揮すると考えられる。そのためには、情報教育について、十分に検討する余地がある。たとえば、クラウドやドライブ機能、記録媒体などの使用方法を指導し、自己のアカウントや ID、パスワードを適切に管理していくための情報リテラシー教育の充実が求められる。もちろん、教員も子どもたちの要求に応えられるだけのスキルが必要となる。我々教職員は絶えず自己を研鑽し、アップロードしていく必要があるのだと強く感じた。

折しも、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により、驚異的なスピードで教育現場の ICT 化が進んだ。それに先駆ける形で、キャリアノートのデジタル化を試みた当校の研究は、時代の要求に応えるものであったと考える。子どもたちはその柔軟な発想や、想像力で ICT 機器を使いこなしていた。しかしその一方で、ネット依存やその他のトラブルと表裏一体であるということも忘れてはいけない。あくまで、ICT 機器は子どもたちが成長するための「ツール」であって、それ以上でも以下でもないことを忘れず、今年度の経験を土台にして実践研究を積み重ね、発信、発展させていきたいと考える。